

アカメガシワクダアザミウマを利用した春期の アザミウマ防除

○東浦祥光(山口県農林総合技術センター)・大朝真喜子
・平野耕治(石原産業株式会社 中央研究所)

1. 背景と目的

現在、有力な天敵資材が乏しいイチゴのアザミウマ類に対して防除効果が期待できる天敵として、新天敵資材アカメガシワクダアザミウマ(以下アカメガシワ)を用いた試験を実施している。本試験では、イチゴにおける汎用性を確認するため、土耕栽培と高設栽培での効果試験を行った。

2. 方法

- (1) 調査場所 山口市大内 山口県農林総合技術センター内イチゴハウス
- (2) 耕種概要
土耕試験：品種「さちのか」、2009年10月22日定植、株間25cm、2条植、土耕栽培
高設試験：品種「山口ST9号」2009年10月23日定植、株間20cm、高設栽培
- (3) 試験区 土耕導入区・土耕無処理区(各40㎡、150株)、
高設導入区・高設無処理区(各20㎡、88株)
- (4) 処理方法 アカメガシワ成虫を、土耕試験は2010年3月1日、12日、25日(3月、3回導入)に各500頭、高設試験は同2月15日、3月1日(2~3月、2回導入)に各200頭を導入区内の数カ所に分散して放飼した。
- (5) 調査時期 土耕試験：2010年3月1日~5月13日
高設試験：同2月15日~5月14日
- (6) 調査方法 概ね1週間おきに各区50花のアザミウマ類、アカメガシワの成幼虫数を見取り調査した。

3. 結果の概要と考察

- (1) 土耕試験では、無処理区のアザミウマ類が試験期間の後半に多発生になったが、5月に入っても導入区のアザミウマ密度は無処理区の15%程度に抑えられた(図1)。
- (2) 高設試験では、アザミウマ類の発生は少発生であった。無処理区で4月下旬以降にやや増加したものの、導入区ではほとんど発生が見られなかった(図2)。
- (3) アカメガシワは土耕、高設の両方で良好に定着し、イチゴの栽培形態にかかわらず2月中旬以降の導入が可能であると考えられる(図1, 2)。土耕では5月以降減少傾向が見られたが(図1)、これは、総花数も3~4月より減少したため、利用できる花が減ったことに起因する可能性がある(データ略)。
- (4) アカメガシワ成虫を2~3月に2~3回、10頭/㎡程度放飼することで、イチゴのアザミウマ類の増殖を低く抑えることが可能と考えられる。

4. 図表

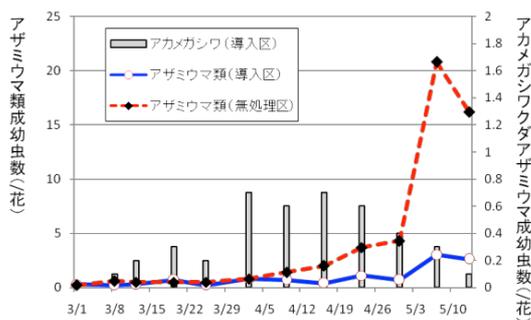


図1 土耕試験における虫数の推移

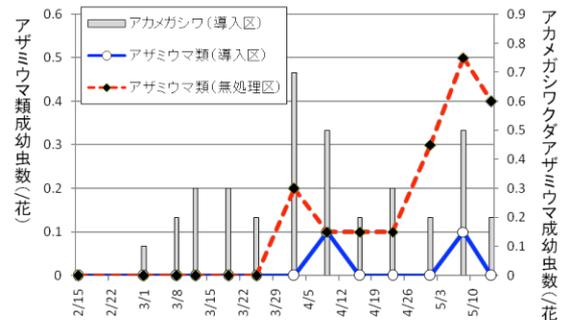


図2 高設試験における虫数の推移